

## トップメッセージ

## ■ ステークホルダーの皆さまへ

## ステークホルダーの皆さまへ

東京エレクトロンは、2013年11月11日に創業50周年を迎えることができました。ここに改めて、長きにわたり当社をご愛顧、ご支援くださいました皆さまに対して、心から感謝申し上げますとともに、この間ともに働いてきた社員、そして先輩諸氏に対してもこの場を借りて御礼申し上げます。

また、この節目となる年において194億円にのぼる当期純損失を計上する結果となりましたことを深くお詫び申し上げます。昨年より、半導体製造装置およびFPD製造装置は再び活気を取り戻し、2014年3月期の売上高は、前年度比23%増加の6,122億円、営業利益は、前年度比157%増加の322億円を達成しましたが、一方で事業の見通しが立たない太陽光パネル製造装置事業からの撤退、先端パッケージング分野における事業立ち上げの遅れ、

開発拠点の集約などに伴い、減損損失470億円を計上いたしました。この責任を真摯に受け止め、経営者一同最善の努力をする所存ですので、ご理解のほどお願い申し上げます。

また、当期は電子部品・情報通信機器事業についても、当事業を行っている東京エレクトロン デバイスの株式の一部売却を決定し、半導体およびFPD製造装置事業へ経営資源を集中させる方針をより明確にしました。経営の初心に戻り、会社の力強い中長期成長に向けて全力を尽くしてまいります。配当については、当社の安定的な財務基盤、昨今の世界経済に鑑み、通期で50円とさせていただきます。

さて、昨年当社は次なる50年の成長と繁栄および業界の継続的発展を期し、米国のアプライドマテリアルズとの対等な経営統合という大きな決

## 次の半世紀を見据えた 変革への挑戦

断をしました。半導体およびFPD製造装置業界における「グローバル・イノベーター」となることを目指して、現在両社の経営幹部により統合準備を着々と進めており、本年の後半には、新しい統合会社を誕生させたいと考えています。

本格的なモバイルネットワーク社会を迎え、Internet of Things (モノのインターネット) という言葉に代表されるように、モノ・社会にかかわる大量のデータが常時世界中を行き交う時代に突入しました。このネットワークは人間と人間のコミュニケーションだけでなく、医療、健康、自動車・交通、エネルギー、金融など人間の生活を根底から支え、豊かにする役割を担います。半導体、FPDはともに社会の基盤産業として、これから全世界で大きな発展と成長が見込まれていますが、世界中の人々がその恩恵を享受できる水準までのコストダウンとブレークスルー技術の開発が必須であり、幅広い技術要素と強力な財務基盤の結合がこれまで以上に求

められております。

今、業界全体が最大の転換点に来ており、これに応えるため、日本を代表する製造装置メーカーである東京エレクトロンと米国を代表するアプライドマテリアルズは、それぞれ自らを大きく変化させることを決意し、一体となって新しい会社をつくり上げることに合意しました。

夢と活力に満ちた未来に向け、私たちはこの新会社が時代を切り開き社会に大きく貢献し、株主の皆さま、お客さま、ご協力いただいている地域の方々などに大きな価値を生み出し、繁栄をもたらすことを確信しております。

最後になりましたが、引き続き皆さまの一層のご支援とご理解を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2014年6月



代表取締役会長 兼 社長 CEO  
東 哲郎